

辞職勧告書

南牧村文化協会は、平成十九年十月九日理事会に於いて問題を提議し、左記の者に対し、村職員を辞職することを勧告します。

記

南牧村企画情報課 楠 恭子 殿

理由

- 一、南牧村は、有史以来の大水害に見舞われ苦境のどん底に呻吟している。いま村内一丸となって復興に全力を傾けるべき時、貴職が愛村の情熱を胸の深遠に置くことなく、只、自己の主張に徹して騒然たる混乱を画策し、外部団体までも介入させて、相剋を展り広げる事態を深く憂悶するものである。
- 二、貴職は、村内住民の心情、常識を皆目知らぬ身で有りながら、説得型に徹し、諍情をたかぶらせ、住民の意見に耳目を傾けず、持論を固持して六年間の歳月を重ねながらも村職員としての資質を具備することを成さなかった。
- 三、村人が熱弁に傾けば理解者と思ひ込み、嘘言嘘啼に技巧を尽くすことだけに六年間を送った。
- 四、見知らぬ地に来村し、村を知ろうともせず、北海道を追われてきた日の怨念を抱いて歩いた六年間であった。
- 五、村人に述べたことの一点一点を正す時、その言辞はことごとく齟齬に終始している。
- 六、結果として諍意過剰の性格は争乱を嫌う村民を全く遠ざけてしまった。

七、報道、団体、法曹の關係者に果たして眞実が伝えてあるか極めて疑問である。

八、幾度か接触する時、練達した話術をもって、相手を籠絡する妖術に長けていることを伺い知る事ができる。

九、野次馬に渡した一片の無根情報によつて、村政を混乱させた行為がしばしばである。

十、村内の対立の構図を巧みに企画し、これに加担し、理念無き分子を糾合して村内に搔擾を躊躇させた。

十一、広報編集の地位を悪用して、頻繁に持ち歩いた雑芥の創作情報を騒動趣向分子に渡し、彼らを煽り、苦境にある村政を羞澁の見世物にして喜悅していた。

十二、一時的に通用した無知の野次馬達への煽動手段は、忽ち着破され、この方便は全く効用を失墮する結果となつた。

十三、住民を説得する時は、公務員の特権を表にし、身を守る時は窮鳥の嘘啼に豹変した。

十四、他者は騙し易いが、村民は騙せない事実が今歴然と証明された。

十五、住民の健康を守るといふ言葉は全く眞実性がないことを住民は渡された紙片によつて知ることが出来た。

十六、特に文化運動を妨害し、曲解の記事を広報に掲載することを専一とした。

十七、文化運動を恒常的に妨害する分子と深く接触し、会員の身边を深く詮索し、分裂を画策してきた。

十八、特定の人物との接触を密にすることを日常としたため、一般住民との関係を狭め、品位を著しく欠く不適切な公務員に成り下がった。

十九、無知の暴虐者を煽動する目的をもって、無根の行政情報を創作した結果、矛盾が露呈し、攪乱の妖術家の本性を、住民のことごとくが知るところとなった。

二十、はるばる北海道から来村したのは、全く自己の持つ計り知れない顛末が伏せられており、住民の健康を守ると絶叫することは、来村の理由の要諦とはならない。

二一、抗争の発火点をフツ素使用の是非の問題としているが、公務員とは、学者、医師、新聞社、退職公務員とは全く別の立場に在って、行政組織や機構の中の一員としての立場があり、そのために身分が保証されているのである。

二二、過去の例を見る時、他者を連れ込んだ数々の運動は、逆に住民を離反させる結果となっている。

二三、広報の編集は、怨念に根差した私情を絡めての作業であった。

二四、広報の編集とは全く無関係の雑件に時間を空費し、不穏分子との流言の交換が日常であった。

二五、貴職に翻弄された分子は、能力低劣の人達であって、現在は逆に貴職の行動の障害となっている。

二六、村人は、常に実直に徹し、謙譲と融和を心情にして共存している。その人の友人、肉親、先祖までも深く理解しており、遠来の旅人を数日で信頼することはしない。

二七、治政の恩典にあずかりながら、庁内の訶争を画策し、社会正義を偽装した言辞を蒔きちらして、他者と連動した全貌はことごとく住民の知るところとなつた。

二八、いま尚、嘘言嘘啼に終始している。

二九、公務員は、その職務を全うする故に身分が保証されるが、道を外した自己中心の行動をした者にまで、治政の恩典を届ける法律が在るとすれば重大である。

三十、貴職の立ち振る舞いは、村興しに燃える住民が見るとき、断じて許容できない行為である。住民は唯、大洪水の復興を第一と考えている。

三一、村長は、住民が望むことを実行することが責務であり、貴職を許容することを望む住民はいない。

三二、此の時、疎愚、避匿を習例とする山村の住民であっても、度重なる文書に触れた結果、問題の重要性にますます関心を深めている。現村長への同情は募り、断固とした決断を求めると共に前任者の不完全な保健師採用に避難が集中している。

以上

平成十九年十月二十日

南牧村文化協会代表

会長 市川 太平

